

## 第13回

# アジア環境創造型 稲作技術会議

水田は6000年の昔から、人類の3大主食と言われる栄養価に富んだお米が栽培され、同時に広大な湿地環境を作り上げて多様な生きものを育ててきました。ところが第2次世界大戦以降、農薬や化学肥料をふんだんに使い、イネを効率よく栽培するための基盤整備が進められ、同時に食のグローバル化のなかで、食の安全はもちろん、豊かな環境を失い、稲作経営も不安定になってしまいました。

日・韓・中の心ある農民はこうした事態を打破するために、2000年から各国持ち回りで、環境保全型の有機稲作を中心にその技術の交流や環境と水田農業、有機農業を核とする地域づくりや農業政策について情報の交換を行ってきました。

2012年は中国四川省成都において第13回アジア環境創造型稲作技術国際会議が計画されてきましたが日中関係の領土問題等で日本側からの参加が困難となり、韓国と中国の関係者によるミニ集会となりました。

こうした経過を踏まえ、改めて第13回アジア環境創造型稲作技術会議を2013年8月9日（金）～8月11日（日）に日本国栃木県小山市で開催することとしました。

ここ2年間の栽培実践のなかで、韓国ではポット苗などによる成苗移植技術が普及し、ジャンボタニシ農法による生態系への悪影響を克服する技術的可能性が見出されてきました。特にホンソンを中心に水田生物の多様性を活かした有機畜産との複合経営が普及技術として確立され、大きな前進を見ることができました。

一方、水田を湿地として捉え、その持続可能な利用をめざす、ラムサール条約の精神を具体化するものとして、水田の豊かな生物を復活させる有機稲作が注目されました。2008年には韓国・昌原（チャンウオン）市で、ラムサール条約第10回締約国会議が開催され水田決議(X/31)が採択されました。続いて2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議においては、2050年までに「自然と共生する世界」を実現することを目指し、2020年までに生物多様性の損失を止めるため効果的かつ緊急の行動を実施する20の目標を定めた愛知ターゲットが採択されました。また、同年に豊岡市で開催された第1回生物多様性を育む農業国際会議に呼応した水田の生物多様性関連の決定(X/34)も採択され、アジアの水田が生物の多様性保持のうえで重要な役割を担っていることが国際的常識となってきました。一昨年はトキの野生復帰を実現した佐渡市が世界農業遺産に登録され、アジアの農業が国際的にも高い評価を受け、今後の農の在り方を指し示すひとつのモデルとなってきました。

農業政策の展開についても韓国では親環境農業育成法が改正され、農薬を原則使用しない有機農業や無農薬栽培を重点的に支援する政策が展開されてきました。中国では重要な輸出産品として有機農産物の生産奨励が行われ、今や世界第2位の規模にまで発展してきています。そして日本国内では有機農業推進法が制定されて5年の歳月が流れ、有機農業が地域に根付くきっかけとなってきました。

完成度を高めてきている日本の水田生物の多様性を活かした有機稲作や韓国の有機稲作を核とした環境保全型農業への全面的転換をめざす農政の展開、緑の革命によって破壊された豊かな自然をとりもどす農法推進をめざすアジアの農業関係者が技術的課題を報告討論し、成果を共有し、共通の認識をもって豊かな未来を切り開きたいと考えます。

日程

平成25年8月9日（金）～8月11日（日）

会場

小山市立文化センター ほか

テーマ

アジアにおける生物多様性を活かした稲作の推進と  
地域環境経済の創造

- ◆参加費 5,000円(資料代・大会経費)  
宿泊、交流会参加等を希望される場合は、別途経費が必要です。
- ◆参加申込 小山市HPより所定の参加申込フォームに必要事項を入力の上、WEBにてお申し込みください。
- ◆申込期限 定員になり次第締切とさせていただきます。



■ お問い合わせ 第13回アジア環境創造型稲作技術会議実行委員会

小山市役所 企画財政部 渡良瀬遊水地ラムサール推進室

ラムサール・賢明な活用推進係

〒323-8686 栃木県小山市中央町1-1-1

TEL:0285-22-9354 FAX:0285-22-8972

メール: d-ramsar@city.oyama.tochigi.jp

http://www.city.oyama.tochigi.jp/



# 会議スケジュール



## ■第1日 8月9日(金)

13:30	受付
14:00	現地視察開始【①渡良瀬遊水地コース ②栽培技術見学コース ③生きもの調査コース】
18:00	終了(小山グランドホテル着)
19:00	歓迎レセプション【小山グランドホテル】
21:00	歓迎レセプション終了

## ■第2日 8月10日(土) 【小山市立文化センター】

8:30	受付・オリエンテーション
9:00~9:20	主催者代表あいさつ 小山市の環境にやさしい農業の推進について 実行委員会委員長 小山市長 大久保 寿夫
9:20	<b>第I部</b> アジアにおける環境創造型稲作技術と環境再生・環境経済戦略 【基調講演】発表者 日本応用動物昆虫学会名誉会員 桐谷 圭治 氏 「アジアの水田農業と生物多様性総合管理の課題」
10:10	休憩
10:20	【基調報告】
12:30	① 発表者 国立農業科学院生物多様性農法担当 カン・ギギョン 氏 「韓国における生物多様性有機稲作の現状と環境再生運動について」 ② 発表者 元江蘇省鎮江市農業科学研究所所長 趙亜夫 氏 「中国南部における環境創造型有機稲作の取組みとその現状」 ③ 発表者 アジア学院職員 ギルバート・ホガング 氏(フィリピン) 「フィリピンにおける緑の革命による環境破壊と回復の試み」 ④ 発表者 NPO 法人 民間稲作研究所 稲葉 光國 氏 「日本における生物の多様性を活かした環境創造型水田農業の技術問題と環境再生技術」 ⑤ 発表者 (株)JAファーム佐渡代表取締役 板垣 徹 氏 「世界農業遺産登録と朱鷺野生復帰による地域づくりの意義」
12:30	<b>第II部</b> 子どもたち、未来への提言 コーディネーター NPO 法人 田んぼ 岩淵成紀 氏、意見発表者 小山市内小学生他
13:00	休憩
14:00	<b>第III部</b> 分科会【分科会I 栽培技術に関する現地報告と討論】 ～アジアにおける環境創造型有機稲作と生物多様性回復の可能性～ 【分科会II 水田の生物多様性向上に向けた取り組みの現状と課題】 ～日・韓・中における湿地環境としての水田の意義～ 【分科会III 水田の多面的機能の学習と地域ぐるみの生きもの調査の展開】 【分科会IV TPPを乗り越える 食と農-その安全性と地産地消による地域経済の再生】
17:00	分科会報告
17:40	終了
18:30	夕食・交流会(須賀神社会館)
20:30	



## ■第3日 8月11日(日) 【小山文化立文化センター】

9:00	<b>第IV部</b> 東アジアにおける環境創造型農業の政策展開をめぐる 佐渡市からのメッセージ 世界農業遺産に認定されたトキと共生する農業を全国へ 佐渡市長 甲斐 元也 氏
10:00	座談会 『環境にやさしい農業とトキの舞うふるさとづくりの夢を紡いで』
	休憩
10:10	報告・討論 環境創造型農業としての有機農業政策の現状と課題
11:30	
11:40	閉会行事 大会宣言の採択 次期開催国からのメッセージ 閉会のあいさつ
12:00	
12:00	全日程終了
13:30	オプションツアー

## ■会場案内

### 小山市立文化センター

〒323-0023 栃木県小山市中央町 1-1-1  
TEL:0285-22-9552 FAX:0285-24-3021

